

第93回埼玉県駅伝競走大会

【出場結果】

実施日：2月1日（日） 8時20分スタート

コース：熊谷スポーツ文化公園陸上競技場及び公園内特設周回コース

総距離：6区間 29.5 km 成績：1時間 33分 04秒 9/32位

出場者・リザルト：1区 8.2 km 下田 大翔 1/23位 23'58"

2区 3.0 km 小林 航央 2/23位 8'55"

3区 4.1 km 坪井 響己 9/23位 13'01"

4区 6.0 km 救仁郷 弓揮 4/23位 18'38"

5区 4.1 km 三浦 剛 5/23位 12'27"

6区 4.1 km 田中 龍誠 21/23位 16'05"

【レポート】

先週の奥むさし駅伝に続き、2週連続でのレースとなる埼玉県駅伝に出場しました。

これまでは、さいたま新都心駅スタート～熊谷スポーツ文化公園陸上競技場ゴールの公道開催でしたが、今年度より国道の長時間に亘る交通規制への配慮もあり、熊谷スポーツ文化公園内の特設周回コースでの開催となりました。

コース変更に伴い、42.195 kmから 29.5 kmへ距離が短くなったことで、より選手一人ひとりのスピードが求められ、1区間の重要性が増したため、1つのブレーキが命取りとなります。

当社はこの駅伝で一番距離が長い1区に下田、二番目に距離が長い4区に救仁郷の新人コンビを起用し、チームの若返りを意識したメンバーでレースに臨みました。



スタートの号砲と共に先頭を引っ張る下田

熊谷スポーツ文化公園陸上競技場でスタートの号砲が鳴るや、下田が集団から飛び出す果敢な走りを見せます。

1 km程で集団に吸収され先頭集団の中でレースは進みますが、ここからペースは1 km3分を前後するスローな展開に。

その後、ラスト2 kmまで先頭集団が崩れない膠着状態が続きましたが、大学生チームのランナーが一気にペースを上げると下田も食らつき、中継所のある競技場内に入ったところで、下田が切れのあるラストスパートを見せ、見事区間賞の走りで2区の小林に襷を渡しました。



区間賞の走りでエースの役割を果たした下田

絶好の位置で襷を受け取った小林は、今回の駅伝をもって退部を表明しており、ラストランに懸ける想いは人一倍強く、序盤から勢いのある走りを見せてくれました。

中盤までは大学のチームと並走する場面もありましたが、後半も力強い走りは変わらず、後続に7秒差をつける区間2位の走りを見せて3区の評井に襷をつなぎました。



当社でのラストレース！想いを力に変える小林

先頭で襷を渡された3区の坪井は、2月末に大阪マラソンへの出場を予定しており、走り込みを行う中での出走となりました。

身体に疲労を感じる中、1km3分程のペースを刻むと、後方から追いついてきたクラブチームの選手との競り合いとなりましたが、ここで転倒のアクシデントに見舞われます。

コースの折り返しの際に足の接触があり、坪井は大きく転倒し、暫らく立ち上がれないほどの状況でした。

その後は何とか立ち上がり、激しい痛みを耐えながら、中継所を目指して走り切りましたが、先頭との差は57秒、順位を4つ落とす5位で4区の救仁郷に襷を渡しました。



転倒のアクシデントに巻き込まれるも、必死に中継所を目指す坪井



4 区の救仁郷は、入社後すぐに社会人生活に適応し、10000m で 28 分台をマーク、5000m でも自己記録を更新するなど、素晴らしい活躍を見せてくれましたが、秋口に故障してしまい、痛みが長引いてレースへの出場を見送っていました。

しかし、1 月に入り、ようやく痛みなく走れる目途がつき、今回の出走に至りました。

まだ復帰段階であるため、調子としては 3 割程度の仕上がりですが、気持ちでは区間賞を狙い、前の選手を必死に追いました。

動きの柔らかな前傾姿勢のフォームが特徴の救仁郷は、4 位のチームとは 40 秒ほどあった差を少しずつ詰め、中継所では視界に捉える 18 秒差として 5 区の三浦に襷渡しを行いました。



区間賞を狙う気持ちで走る救仁郷

5 区に起用された三浦も故障明けながら、奥むさし駅伝では、まずまずの走りを見せており、今回も堅実な走りを期待しましたが、18 秒まで詰まった 4 位との差はなかなか詰まらず、流れを失った駅伝ならではの難しいレース展開に。

序盤は勢いのあった走りも中盤を過ぎるとペースが鈍りだし、その差は広がって、4 位と 39 秒の差をつけられてアンカーの田中に襷渡ししました。



5位をキープする走りとなった三浦

6区のアンカーを任された田中は、奥むさし駅伝では悔しい走りとなってしまい、リベンジを期しての走りとなりましたが、ウォーミングアップの際に、脚に痛みが出るアクシデントが生じ、痛みを抱えた中で走り出すこととなりました。

普段は冷静な走りが持ち味の田中ですが、脚の痛みを耐えながらの走りは精彩を欠き、4位のチームとの差は更に開いて、5位をキープしたまま競技場内へ。

競技場に入ると、中継・ゴールする走者は外側のレーンを走り、場内を周回する走者は内側のレーンを走るようにコースが分岐されていましたが、ゴールする田中は本来外側のレーンを走り、ゴールしなければならないところ、内側のレーンを走ってゴールしてしまいました。

これが走路ミスと判定され、一度はゴールしたものの、300m手前の分岐地点まで戻って走り直すこととなったため、最終順位を5位から9位に落として正式にゴールしました。



脚に激痛を感じながら走る田中

【総括】

レース途中での転倒や、競技場内での走路ミスと、アクシデントが重なり、入賞を逃す 9 位の結果に終わったことは、悔しさ以上にチームとしての反省点が多く出た駅伝でした。

但し、チームの若返りにフォーカスして考えれば、下田が区間賞の走りでエースの貫禄を示したこと、救仁郷がレースに復帰したことはチームとしての収穫となり、来年度に向けては、あらためて目標と課題を明確にして取り組んでいきたいと思えます。

なお、本大会をもって、選手の小林とコーチの福士が退部することとなります。

小林については、1500m を主戦場とするスピードランナーながら、社会人になってから 5000 m、10000m でも当社の記録を更新する活躍を見せ、マラソンにおいても、ふくい桜マラソンで優勝するなど数々の実績を残してくれ、福士コーチは 8 年もの間、スタッフとして陰で支えてくれ、いつも明るく誠実なキャラでチームを明るく照らし続けてくれました。

二人とも長きに亘ってチームに貢献頂き、誠に有難う御座いました。大変お疲れ様でした。

今後は、熱い応援でチームを盛り上げて頂けると嬉しいです。

最後になりますが、2 週にわたり早朝から沿道より熱いご声援を頂きました田中社長をはじめとする役員の皆様および会社関係者の皆様、本大会の役員としてご尽力頂いた関係者の皆様に、チーム一同、あらためまして御礼申し上げます。

引き続きまして、皆さまの温かいご声援を宜しくお願い致します。

以上